

「ドンングリ」とは、ブナ科の木の実のこと。クヌギの実を思いつく人が多い。カシ・ナラ・カシワの実もよく見られ、「食べないかたい木の实」と思われている。なので、クリはドンングリのなかまにはしない人もいる。

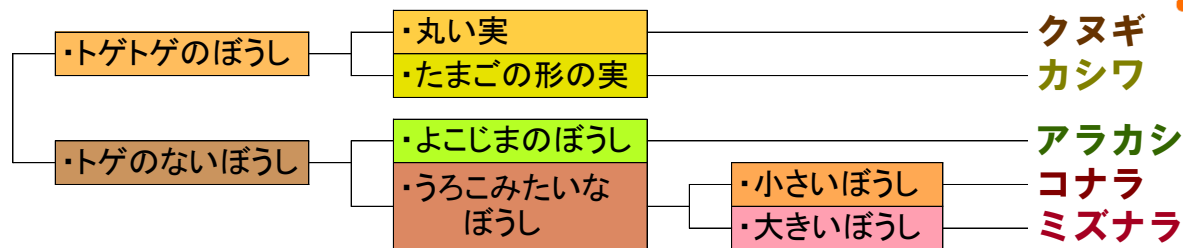
クヌギ アラカシ コナラ ミズナラ カシワ



<http://www.enyatotto.com/donguri/acorn/acorn.htm>

見分け方

実だけでなく、「ぼうし」もつけておくこと



ドンングリの増え方 ~動物に食べられて移動する~



実がはじけ、タネがとぶ



風でタネがとぶ



タネが回って落ち、遠くへ行く

植物は子孫繁栄のため、タネを遠くにとばす工夫をしています。

ドンングリの作戦は、栄養いっぱいの実をつけ、動物に食べてもらうことです。リスやネズミは、おいしいドンングリを冬用に巣に運んだり土にうめたりします。

食べ残されたドンングリは、母親の木から遠くはなれた所で芽を出すことができます。

ドンングリ



リスなどの動物に食べられる



一部は運ばれ、たくわえられる



食べ残された実から芽が出る



秋になると、
葉が黄色くなり、
冬には葉を落とす



クリもブナ科の植物で、
ドングリのなかまです。

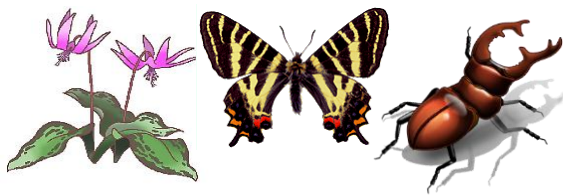


<http://www.wood.co.jp/wood/index.html>

雑木林 ~ドングリがとれる所・里山~

「雑木」とはドングリの木のこと、クヌギやコナラなど、ブナ科の木のことです。「雑草」から想像すると、「雑木」は役に立たない木になります。クヌギやコナラは家を建てる材木にはならない木ですが、「マキ」になる大切な木です。切ってそのままにしておいても、20年ほどでもとの林にもどるからです。

縄文時代の大むかしから、つい最近(50年前)まで、人類のエネルギー源は「マキ」でした。マキをもやして、料理を作り、寒さをしのいできました。長い間、人間がマキ用に木を切って、ドングリの木を増やしてきました。なので「雑木林」を「里山」とも呼びます。



今、マキはいらなくなり、ドングリの木を切らなくなりました。そのため、雑木林のようすが変わり、住んでいる植物も動物も影響を受けています。

「手つかずの自然」だけでなく、「人間がかかわってきた自然」も大事にされるようになってきました。

今年はドングリが少ない年、クマの出没が心配されます。「里山を減らしたのは人間」、クマ用にドングリを山に運ぶグループがあります。逆に「人間は自然に手出ししてはいけない」と反対するグループもあります。どちらを支持しますか？

